

内容評価基準報告書

評価	A-1-(1) 子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境を整備している
【講評】時間割を固定し、学習を優先して行えるようにしています。学年が混合した班ではおやつや学習の時間を過ごします。また、学童で過ごす時間が窮屈にならないようにソファなども設置し、ゴロゴロできる工夫もしています。体調がすぐれない場合は事務所で横になれるようにしています。	
評価	A-1-(2) 放課後児童クラブにおける育成支援
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①子どもが放課後児童クラブに自ら進んで通い続けられるように援助している
【講評】 学童に通うことで友達を増やすことができればよいと考えています。利用を開始したころは一人で遊ぶ子どもも次第に集団での遊びに参加できるように促していますが、無理強いはありません。職員は子どもの居場所作りが行えるよう働きかけをして、毎日通うことができるようにしています。学童での過ごし方が自分のペースで過ごせることで休むことなく通うことができます。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	②子どもの出欠席を把握し、適切に援助している
【講評】 保護者とは連絡帳のやり取りを行い利用の予定を確認します。学校が長期に休みとなる場合事前に利用の予定表を提出してもらうことで、確認をしています。また、帰宅の時間も連絡帳で確認するために、通所の際子どもが自分で連絡帳をBOXに入れたのち職員が内容の確認を行うことにしています。時間になっても確認できない場合は、下駄箱をチェックしたり、同じクラスの子どもに確認をするなど、子ども所在確認を確実にする流れを構築しています。	
評価	A-1-(3) 子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにする育成支援
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるように援助している
【講評】 学童で過ごす時間の内容が決められていることで、時間割を軸に子どもたちは自分たちがしたいことができるようにしています。学習の時間に宿題を終わらせることや遊びの時間に誰と何をして遊ぶなど、子どもが自主的に行動できるようにしています。職員は子どもたちの様子を見て、適切に介入できるようにしています。子ども同士の関係が人間関係を築くことで子ども自身の学びにつながると考えています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	②日常生活に必要となる基本的な生活習慣を習得できるように援助している
【講評】 毎週金曜日は上履きを洗う日と設定しています。学童の利用が終了しても自宅でも毎週行う習慣として身につけることができることを目指しています。通所時や帰宅時の挨拶やおやつの手洗いなど、当たり前のことが習慣になるよう職員は繰り返し声掛けをしています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	③子どもが発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができるように援助している
【講評】 夏休みなど長期の休みの場合は学童で過ごす時間も長いため、昼寝をしたりゴザを敷いてゴロゴロできるようにしています。遊びの時間は子どもたちが自由に過ごすことができるようにしていますが、時には職員から遊び（手芸など）の提案などを行います。興味を示した子どもたちはミサンガ作りにも挑戦しました。子どものできそうなことを提案し、取り組むことのできる環境を整えることで子どもの楽しみにつながることができています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	④子ども同士の関係を豊かに作り出せるように援助している
【講評】 子ども同士でけんかをしてしまう場合もありますが職員は見守りを行いながら様子を伺います。介入が必要な場合は互いの話を聞き、解決に導きます。どちらかが謝ればよいのではなく納得が行く方法を考えます。そのため子どもは自分で考える力を育み成長することができます。職員の介入のあり方がこの成長に繋がっています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	⑤子どもが自分の気持ちや意見を表現することができるように援助している

【講評】 子どもは自分の考えや思いを表現したいことを言葉にできない場合もあります。職員は、子どもの様子を汲み取り言葉にして思いの確認をしながら、徐々に自分の思いを自ら口にできるようにしていきます。時には、悩みごとの相談を受けることもあるようです。職員が子どもの成長過程を理解し、きめ細かくかかわることで子どもの表現する力を身につけることができるようになります。	
評価	A-1-(4) 固有の援助を必要とする子どもへの適切な育成支援
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①障害のある子どもの受入れの考え方を理解したうえで、受入れに努めている
【講評】 月に1回作業療法士が訪問し子ども成長段階の確認が行える機会を設けています。現在障害認定をされている子どもはいませんが、ルールが理解できない子どもやスクールカウンセラーにつなげたケースなどもあるため、発達障害についての見極めも必要になってきます。ルールが覚えられない場合は遊びの中で覚えることができるよう、職員が寄り添いながら介入するなど子どもの特性に応じて対応をしています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	②障害のある子どもの育成支援に当たっての留意点を踏まえ、育成支援を行っている
【講評】 今年度は職員の配置が大きく変わったこともあり、クラブ内で発達障害についての学びの時間を設けました。法人研修では行うことはないため、事業所の子ども状況に合わせクラブ独自の取り組みです。職員間で学びを共有することで、共通の視点をもち子どもたちとかわることが出来ます。今後も様々な障害について学びの時間が持てることを期待します。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	③特に配慮を必要とする子どもへの対応に当たって、関係機関と連携して適切な支援を行っている
【講評】 日頃の関りの中でいつもと違う様子が見られた場合などは、特に注意して関わるようにしています。必要に応じて学校と連絡をとり、家庭の状況に変化はないかなど確認をしています。クラブ内での虐待防止以外でも家庭内虐待が生じていないか、子どもの様子を確認して法人内や学校と連携が図れる環境を整えています。	
評価	A-1-(5) 適切なおやつや食事の提供
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①放課後の時間帯におやつを適切に提供している
【講評】 栄養士がおよつ献立を作成しています。おにぎりやアメリカンドックなど腹持ちのよいおやつを準備することもあります。時にはハンバーガーを提供したこともあり、子どもにはとても好評だったようです。およつ時間を食育も意識し提供することで自分で量を決めたり自己判断ができる機会ともなっています。また、およつが毎日通うことの楽しみにもつながっています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	②食に伴う事故（食物アレルギー事故、窒息事故、食中毒等）を防止するための対応を行っている
【講評】 現在アレルギー対応の子どもは3名います。対応表を作成し提供に関しての事故が発生しないよう周知しています。また、感染症対策も回り手指の消毒や、手洗い場にノロウイルスに対する注意喚起などを行っています。窒息事故が生じた場合の事例検討を行う機会を設け、職員が緊急時に即対応できるようにしています。予防と緊急時の対応が行える体制を整えています。	
評価	A-1-(6) 安全と衛生の確保
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①子どもの安全を確保する取組を行っている
【講評】 夏の間は特に猛暑の期間が長く、熱中症対策が欠かすことはできませんでした。遊ぶ前に10分間体を暑さにならず時間をもうけ、30分遊んだ後は水分とタブレットを摂取するようにしました。子どもは遊びだすと時間を忘れ集中してしまうため、職員の管理が必要になります。また、保護者への連絡も擦り傷は連絡帳、頭を打った場合は電話をするなど事象に応じた対応を行うようにしています。子どもの安全を第一に考え、学童での過ごし方と帰宅後の様子観察ができる体制を整備しています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	②衛生管理に関する取組を適切に行っている

【講評】 新型コロナウイルス感染症に対して状況に応じた対策を図ってきました。アクリル板を設置した期間もありました。日常におやつの前 の手洗いや手指消毒を適時行えるように職員は促しをしています。また、学級閉鎖になった場合の受け入れも行っているた め、学校との連携を図り感染状況の確認も行っています。子どもが帰宅した後は、テーブルなどの消毒を毎日行い翌日安全に 受け入れが行えるようにしています。	
評価	A-2-(1) 保護者との連携
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①保護者との協力関係を築いている
【講評】 保護者との関係を築くために今年度は初めて体育館を借りて、親子レクリエーションを開催する企画を立案しました。親子レク リエーションを開催することで親子の関係性を深めることや学童での様子を知ってもらう機会とする狙いです。宿題などもすべて を学童で行うのではなく学習の時間を活用したとしても保護者に確認してもらいます。	
評価	A-2-(2) 学校との連携
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①子どもの生活の連続性を保障するため、学校との連携を図っている
【講評】 校舎の一角に学童の教室があることで日常的に学校との連携を図りやすい環境にあります。子どもの様子や学校行事なども 適時情報の交換が行えます。関係性が構築されていることで、子どもの課題について共に考えることができる、子どもは混乱せ ずに学校と学童に通うことができます。	
評価	A-3-(1) 子どもの権利擁護
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている
【講評】 職員は子どもの権利について理解し、権利が侵害されることや虐待とは何かを研修などで学んでいます。学びを活かし、視点 を持つことで虐待の発生はありません。家庭での虐待についてもいつもと違う子どもの様子や行動に目配りを行い、職員間で共 有をし様子観察を行えるようにしています。子どもが安全に生活を送るためにも今後も権利擁護の学びを深め観察されること に期待が持てます。	